# 金沢城 二の丸御殿の復元整備

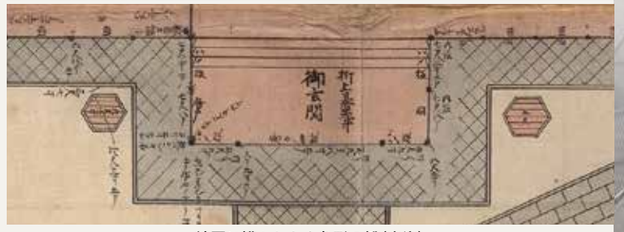
石川県

## 埋蔵文化財調査の概要

■調査期間：令和２～６年度
■調査面積：2,300㎡

江戸期の遺構を確認し復元整備に反映するとともに、遺構を確実に保存するため埋蔵文化財調査を実施しました。

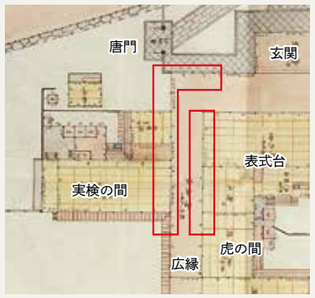
調査により、江戸期の御殿や明治期以降の変遷に関する遺構が確認されました。



絵図に描かれた六角形の枡（水溜）
「二之丸御殿絵図」（部分）（金沢市立玉川図書館蔵）

広縁両側の礎石根固め列

御殿の礎石の根固め(礎石を安定させるための基礎部分)を広範囲で連続的に確認




遺構の位置と絵図
「金沢城二之御丸三歩碁之図」(部分・加筆)
(石川県立図書館蔵)

玄関両脇の六角形の枡(水溜)

梅鉢紋が打ち出された銅瓦

## 内装の検討

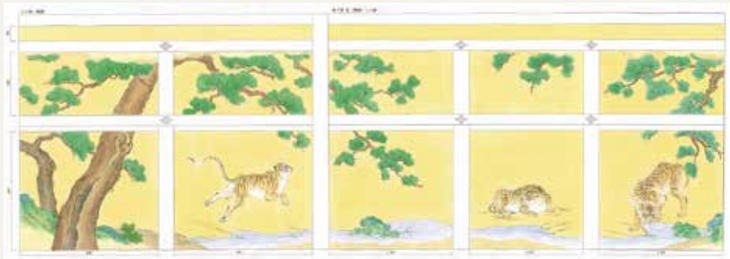
調査の過程で、江戸後期の御殿の仕様書にあたる史料「二之御丸御殿御造営内装等覚及び見本・絵形」が確認されました。各部屋の材料や仕上げが詳細に記載されるほか、飾金具の図面や唐紙の実物見本が収録され、史実を尊重した復元整備に資する全国的にも貴重な史料です。

この史料には、建築物の仕様だけでなく、障壁画の絵師や画題についても記載されており、これらの記録をもとに、壁や襖、杉戸などに描かれた障壁画の再現に取り組んでいます。

飾金具（引手）の絵形

壁や襖に張られた唐紙の見本

「二之御丸御殿御造営内装等覚及び見本・絵形」（部分）（金沢市立玉川図書館蔵）



虎の間障壁画の小下絵（令和6年制作）


**復元整備に関するお問い合わせ**

石川県土木部公園緑地課金沢城二の丸御殿復元整備推進室
〒920-8580 石川県金沢市鞍月1丁目1番地
TEL. 076-225-1774　E-mail: e251800a@pref.ishikawa.lg.jp

## 二の丸御殿の概要

金沢城二の丸御殿は、藩主の住まいや政務の場として藩政の中心となった城内最大の建造物でした。江戸前期の創建以来、二度の火災による焼失と再建を経て明治14年(1881)まで存在しました。

御殿は約3,200坪、60を超える部屋からなり、数多くの飾金具や障壁画に彩られた、加賀百万石の栄華の象徴ともいえる建物でした。

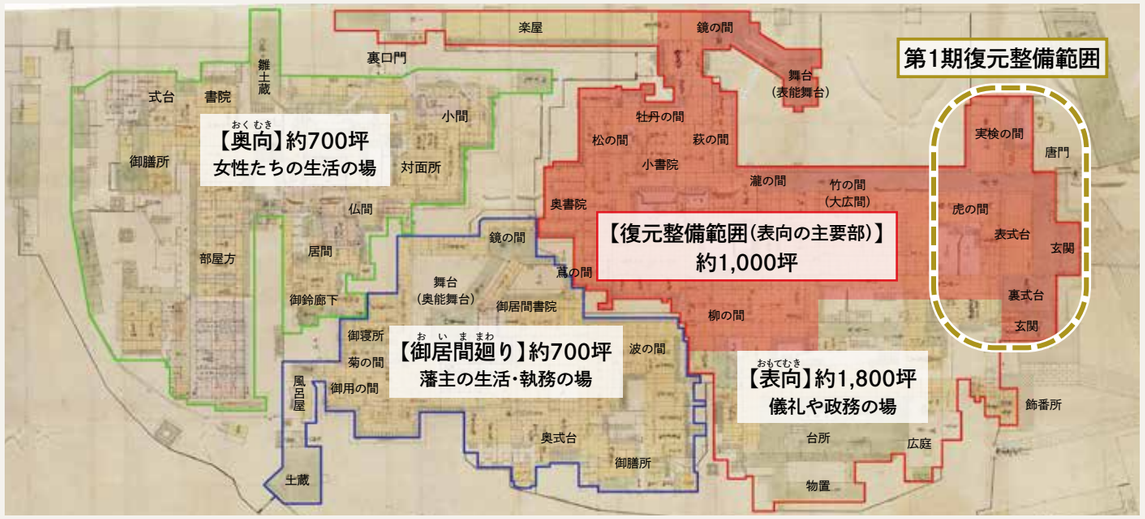
### 金沢城年表〈二の丸御殿関係〉

| | | |
|---|---|---|
| 慶長 7年 | 1602 | 天守が落雷で炎上する |
| 寛永 8年 | 1631 | 本丸御殿の焼失を機に、二の丸に御殿を創建 |
| 宝暦 9年 | 1759 | 大火により御殿を含め城の大半が焼失 |
| 宝暦11年 | 1761 | 御殿の再建に着手する |
| 宝暦13年 | 1763 | 10代重教（しげみち）、再建した御殿に入る |
| 安永 2年 | 1773 | 御殿の玄関･式台･虎の間等に着手し、翌年竣工 |
| 天明 8年 | 1788 | 石川門を再建する |
| 文化 5年 | 1808 | 大火により御殿が焼失、再建に着手する |
| 文化 6年 | 1809 | 12代斉広（なりなが）、再建した御殿に入る |
| 文化 7年 | 1810 | 御殿の造営が完了する |
| 明治 2年 | 1869 | 14代慶寧（よしやす）、御殿から重臣本多家の屋敷に移る |
| 明治 4年 | 1871 | 廃藩置県により、御殿は兵部省（ひょうぶ）の所管となる |
| 明治14年 | 1881 | 旧二の丸御殿焼失 |
| 明治31年 | 1898 | 二の丸跡に第九師団司令部庁舎が建設される |
| 昭和38年 | 1963 | 二の丸跡に金沢大学法文学部校舎が建設される |
| 平成13年 | 2001 | 金沢城公園が開園する |
| 平成30年 | 2018 | 金沢城二の丸御殿調査検討委員会設置 |
| 令和 3年 | 2021 | 復元整備に向けた基本方針を策定 |
| | | 金沢城二の丸御殿復元整備専門委員会設置 |
| 令和 7年 | 2025 | 二の丸御殿整備工事起工式 |

## 二の丸御殿の復元整備

石川県では、本県の歴史文化の象徴ともいえる金沢城公園において、平成13年完成の菱櫓・五十間長屋・橋爪門続櫓をはじめとし、河北門、橋爪門二の門、令和2年の鼠多門・鼠多門橋の完成まで、本物志向の姿勢で復元整備の取り組みを進めてきました。平成30年から復元に向け検討を重ねてきた二の丸御殿は、城の中心的な建造物であり、これまでの金沢城復元の総仕上げとも言えるものです。御殿の復元は、金沢城の価値や魅力の向上はもとより、次世代への技術の継承、令和6年能登半島地震で被災した職人の生業再建への寄与など、多面的な意義を有する事業です。

復元整備は「表向」のうち飾金具や障壁画など御殿ならではの装飾が見られる主要部を対象とし、令和6年度から玄関や式台周辺を対象とする第1期復元整備工事に着手します。




「二の御丸惣絵図（三歩碁）」（金沢大学附属図書館蔵）に加筆

## 玄関・式台周辺の復元整備の概要

復元整備工事は工事現場を覆う素屋根の建設、柱や梁を組み上げる建築躯体工事、屋根や内外装の仕上げ工事と、順を追って進めます。

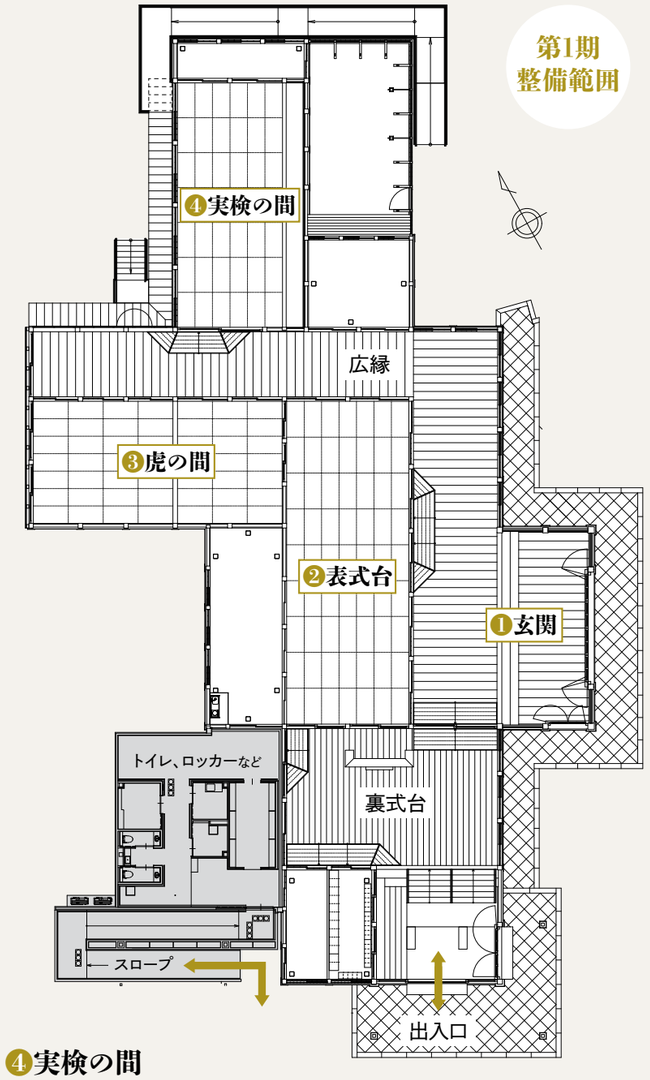
史実を尊重した伝統的な木造による整備を前提に、バリアフリー対応や耐震性の確保、冷暖房の整備など、全ての方が安全かつ快適に利用できる整備に努めます。

■素屋根概要

鉄骨造平屋建て　建築面積2,028㎡、高さ26.7m

■御殿復元整備概要

木造平屋建て　建築面積1,012.36㎡、延床面積784.55㎡




### ❹実検の間

実検（じっけん）の間は、儀礼が行われる際に警護の藩士が控えた他、様々な用途に使用されました。

復元整備にあたっては、講座や文化イベントなどに活用できる空間として整備します。

### ❶玄関

玄関は総ケヤキ造りで、外装には前田家の家紋「梅鉢紋」が取り付けられていました。梁の上には、防火の願いを込め、水に棲むサイを題材とした「波に犀」の彫刻が設置されていました。

### ❷表式台

表式台（おもてしきだい）は63畳の畳敷きの空間で、客人を迎えるための儀礼が行われました。

壁や襖には金箔が張られ、永遠に続く繁栄を象徴する、青々とした葉を茂らせる若松を題材とした障壁画が描かれました。

### ❸虎の間

虎の間は竹の間(大広間)で儀礼が行われる際の待合の空間で、加賀藩出身の絵師、岸駒（がんく）による虎の障壁画が描かれていました。

御殿の障壁画に虎を描くのは、主人が猛獣を従えるほどの強大な権力を持つことを示すためと言われています。